

JA あおぞら 自己改革取組宣言

総合事業による農業振興・地域貢献

令和元年5月31日
第18回通常総代会

本県では、少子高齢化や人口減少により農業生産基盤の縮小が懸念され、また、地域の生活基盤の維持も危惧されています。

JAは、食と農を基軸に地域に根ざした協同組織として、総合事業による農業振興・地域貢献を行っています。総合事業を営むことで、資金や利益が循環し、JA事業の根幹である営農指導・販売・購買事業の充実・強化に繋がっています。

また、「協同組合」とは、組合員の力を合わせて、組合員の農業や生活を守り、よりよい地域社会を築くことを目的とした集まりであり、出資者である組合員は、地域で農業を営み、地域に暮らす皆様です。

JAでは、総合事業の強みを活かし、介護事業や市町村と連携したイベントの開催など、地域の活性化に貢献しています。

今後、JAでは、総合事業による健全な事業運営を行い、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とした、自己改革に取り組んで参ります。

私たちは「次代の農業を目指す
開拓者精神」を信念に
新しい取り組みに挑戦し続けます。

- 1. 「スマート農業」の普及による省力化・効率化への取り組み
- 2. 関係機関と一体となった加工業務用野菜の産地確立
- 3. 生産コスト低減に向けた予約購買の拡大と指導購買の強化など

農業者の
所得増大

- 1. 地域営農ビジョンの策定・実践による新規就農者の募集および後継者の育成・支援。
- 2. ハウスビニール被覆作業など「出向く購買」による農家の負担軽減
- 3. 農家経営支援のできる人材育成の取り組み など

JAあおぞら
自己改革

- 1. 食農教育を通じた次世代との結びつきの強化
- 2. 相談機能・意見集約機能の強化 など

地域の
活性化

農業生産の
拡大

平成30年度 取り組み事例

なつほのか
収穫



『農業者の所得増大』

飼料特売



- 早期水稲「なつほのか」へ品種統一し、食味も良く玄米収量も増加
- 毎月の繁殖・ふすまの飼料特売や、事前申し込みによる予約購買を活用した生産コスト抑制
- JAが主体となった「スマート農業」の普及・推進による省力化・効率化への取り組み

『農業生産の拡大』

加工用
キャベツ



- キャベツなどの加工業務用野菜の産地形成
- ハウスピーネル被覆作業による農家の負担軽減
- グローバル化に対応した第三者認証の推進

『地域の活性化』

年金
感謝デー



- 女性部と連携した「年金感謝デー」の開催
- 地域清掃活動「育てよう笑顔プロジェクト」の実施
- 「感謝祭」「年金友の会」など各種イベントの実施

地域の農業と未来を育てる

JAあおぞらは地域農家の皆さまに支えられ、地域に根ざした協同組織として総合事業の強みを活かした事業展開を行ってまいりました。これからも組合員・地域住民の皆さまと手を取り合い、地域農業を育てていく使命を繋いでいきたいと考えています。

今、農業を取り巻く環境は日々変化し、厳しい環境にあります。だからこそ、「次代の農業」に何を残せるのか、何をすべきなのかが問われていると感じます。組合員・地域住民の皆さまと悩み・話し合い、最後には笑えるような地域・組織を目指し、これからもJAあおぞらは自己改革に取り組んでまいります。

FRONTIER SPIRIT



JAあおぞら